



平成 25 年 11 月 11 日

各 位

会 社 名 マルシェ株式会社  
代表者名 代表取締役社長 谷垣 雅之  
(コード：7524、東証第一部)  
問合せ先 取締役管理本部長 川角 茂樹  
(TEL. 06-6624-8100)

**第 2 四半期業績予想と決算値との差異及び  
通期業績予想の修正並びに特別損失の計上に関するお知らせ**

平成 26 年 3 月期第 2 四半期累計期間（平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日）において下記の通り特別損失の計上を行いました。その結果、平成 25 年 5 月 13 日に公表した第 2 四半期の業績予想と本日公表の実績に差異が生じたので、下記の通りお知らせ致します。

また、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 25 年 5 月 13 日に公表致しました通期（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）の業績予想を下記の通り修正することとしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想数値と実績数値の差異

(1) 平成 26 年 3 月期第 2 四半期（累計）業績予想数値との差異（平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 6,200	百万円 140	百万円 160	百万円 90	円銭 10.76
今回実績 (B)	5,765	77	115	△1,161	△138.33
増減額 (B-A)	△434	△62	△44	△1,251	
増減率 (%)	△7.0	△44.3	△27.5	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 25 年 3 月期第 2 四半期)	6,226	224	246	111	13.22

(2) 業績と予想値との差異が生じた理由

当第 2 四半期累計（累計）業績は、売上高につきましては店舗改装による集客効果が想定を下回った事を含め、既存店来客数が回復しないことなどにより、第 2 四半期の既存店売上高が 94.1%に止まり、当初の予想を下回る結果となりました。

利益につきましては、売上高の減少による影響と電気料金等の値上げや店舗の改装・改修費用等の経費増加部分を吸収できず、営業利益、経常利益ともに当初の予想を下回りました。

加えて固定資産の売却予定等に伴う減損損失 1,119 百万円の計上（3.「特別損失の計上」参照）や、業績見通し等を踏まえて、繰延税金資産の回収可能性を「税効果会計に係る会計基準」に基づき慎重に見直した結果、回収が見込めないと判断した部分を取り崩すこととし、法人税等調整額（税金費用）118 百万円を計上したことにより、四半期純損失 1,161 百万円の計上となりました。

## 2. 業績予想の修正

(1) 平成26年3月期通期業績予想数値の修正（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 12,700	百万円 410	百万円 450	百万円 300	円銭 35.72
今回修正予想 (B)	11,500	170	230	△1,140	△135.73
増減額 (B-A)	△1,200	△240	△220	△1,440	
増減率 ( % )	△9.4	△58.5	△48.9	—	
(ご参考) 前期実績 (平成25年3月期)	12,206	388	427	224	26.68

### (2) 修正の理由

通期業績予想につきましても、第2四半期の業績を勘案し、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益とも前回予想を修正することといたしました。

## 3. 特別損失の計上

当社は、大阪市内に所有する社員寮及び営業拠点の一部において、老朽化が激しい為、今期中の開鎖と売却を決定いたしました。

この決定に基づき、営業店舗も含め、将来キャッシュ・フローの見積りを精査し、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき検討した結果、平成26年3月期第2四半期会計期間において減損損失として1,116百万円を特別損失に計上いたしました。

(注) 上記の予想数値は、当社が現時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる場合があります。

以 上